

バングラデシュにおける女性ドライバーの進出 ムニマ・スルタナ（バングラデシュ）

バングラデシュでは、運転席はもはや男性が独占するものではありません。近年、女性をプロのドライバーとして養成するための政策を政府が打ち出したことで、雇用の機会が女性にもたらされています。政府が女性に着目した狙いは、高い交通事故率の抑制にあります。バングラデシュでは、交通事故によって1日平均15人が命を落としているのが現状です。このような道路交通状況の改善を目指し、バングラデシュ国営バス会社（Bangladesh Road Transport Corporations: BRTC）および国内外の機関が実施する運転訓練プログラムは、女性に門戸を開放しました。

バングラデシュでは、これまでドライバーといえば男性が大半を占めていましたが、その運転によってさまざまな交通事故も起きています。国立交通事故分析研究所（the National Accident Research Institute: ARI）の試算では、バングラデシュにおける登録車両1万台当たりの死亡事故発生率は、西ヨーロッパや北米と比べて少なくとも50倍となっています。

そのような中、政策立案者は、運転に慎重で交通違反を犯す可能性がより低い女性を起用することで、改善を図ろうと考えたのです。その背景には、政府による誤った政策、汚職、運転免許証の不正交付などが原因で、ふさわしい人物に運転免許証が交付されている訳ではないという現実があります。ほとんどの男性ドライバーは、交通ルールや十分な運転スキルを身に付けようとしないうまま、ハンドルを握っています。制度上の問題により、男性はお金と引き換えに簡単に運転免許証を入手することができるからです。このようなドライバーに対してさらに訓練を行ったとしても、直ちに効果は上がりません。

そこで政策立案者は、安全に対する意識が比較的高く、不正とは縁遠い女性ドライバーの存在が、こうした事態の改善に繋がると期待しているのです。また、危険運転や度重なる交通違反、通勤・通学者や他の道路使用者に対する横柄な態度などの行動上の問題も、女性にはさほど見られないでしょう。

2年前にこの取り組みが始まって以来、BRTCは教習所で300人以上の女性に訓練を行ってきました。NGOの中では、バングラデシュ農村向上委員会（Bangladesh Rural Advancement Committee: BRAC）が広範なプログラムを実施することで600人の女性ドライバーを養成し、政府による道路交通の環境改善に向けた取り組みへの支援を行っています。

BRTCの指導員の話では、BRTCの教習所でプロのドライバーになる訓練を受けている



バングラデシュの女性ドライバー

女性の大半は警察官および軍・準軍事組織のメンバーだということです。これに対し、BRAC は農村出身の若い女性に重点を置き、ドライバーになるための訓練を実施しています。BRAC は初めから女性の社会的・経済的バックグラウンドを選考基準にし、女性が自立し社会復帰を果たすことを目指しています。

BRAC の職員によると、2012 年 5 月に教習所が設立されて以来、女性の卒業生を 4 回送り出し、その数は 75 人に上るということです。BRTC では、自身が新たに開始したバスサービスにさえ、女性ドライバーを採用するには至っていません。これに対し、BRAC は 18 名の女性をプロのドライバーとして就職させています。また、国連機関や国際 NGO に職を得た女性もいます。

同じく BRAC の職員の話では、ドライバーに対する需要と自動車登録台数との間に大きな隔たりが存在するため、輸送部門の支援を目的とした指導員の訓練も実施しているということです。BRAC は訓練プログラムを国際基準に沿って修正し、訓練期間も 2 カ月から 5 カ月に延長しました。また、訓練生が十分に集中できるよう、宿泊施設の提供も行っています。

しかし、社会がこれらの取り組みの成果を実感するには至っていません。女性ドライバーの存在は社会から反感を買い、家族からも未だに歓迎されていないため、この新たな職業分野を切り拓くにはさまざまな困難が伴います。それでも、女性が生来持つ優れた能力によって、既製服製造をはじめとする多くの分野と同様、プロのドライバーとして女性の労働力が温かく迎え入れられるようになる、と専門家たちは期待しています。また、ドライバー訓練生も、あらゆる課題を克服し、女性ドライバーという地位を確立できると自信を抱いています。